建設産業委員会会議録

平成 26 年２月６日（木）

午後１時 27 分　開会

〇小出義一委員長

皆さんお揃いですので只今から建設産業委員会を開催します。

閉会中の調査事項についてを議題とします。１月 27 日に行われましたおでかけ委員会の意見集約をします。事前に出揃った意見をメールでお送りしていますので、ご一読ただいているかと思います。まとめを添付していますが、同じ意見もありましたし、詳細に書いていただいた方もいます。まとめについて、特に重要な点など補足がありましたらお願いいたします。

【発言するものなし】

〇小出義一委員長

特になければ、絞っていきたいなと思いますが、報告書の中でまとめていくと、住民商店街が中心となって街づくりをしていく為に話し合える場が欲しいということ、行政ができることは何かという点、また、街づくりとして委員会で準備していたことを今後どうしていくのかということについて、勉強会なりを立ち上げていく必要があるというご意見についてももう少し具体的に詰めていかないと提案にならないと思いますので、その点についてもご意見がいただきたいと思います。

〇中川健一委員

今の話は今後の進め方で、街づくり勉強会などをやるかどうかを議論するということですか。

〇小出義一委員長

概ねこの意見集約では住民と商店街と一緒になって街づくりを進めるとよい、という意見が多かったですが、具体的にはどういう形なのかということは見えていないので、そういうことを詰めていかないと委員会としての意見にはならないと思い、その点を詰められたらと思います。行政ができることとして期待されていることは多々あったと思いますが、具体的にこんなことやっていくべきだというまとめも必要だと思っています。もう１つは先回までの委員会で話し合ってきた、景観や道路の使い方などについて今後どのような扱いにしていくのかについても委員会として協議をしていかなければならないと思っています。

〇新美保博委員

みんながすっと手が挙がらないのは何を問うているのかわからないのが正直なところ。今後やり方、委員会の進め方は後にしても、今日の会議は、前回初めて現場の人の声を聞いた。おそらく現状認識についてはここにいる人も現地の人も同じだと感じました。まず、そこを確認した後、それから進めないとそうではないと考えている人がいれば話も進みませんので。それぞれみんなに聞いたらどうでしょう。

〇小出義一委員長

おでかけ委員会の報告まとめをたたき台にして、みなさんから意見がありますので、思いを一人一人ご発言していただいて全体の方向を確認していきたいと思います。

○沢田清委員
　印象に残った意見から発言いたします。住む人を増やしたい気持ちが強いことはよくわかりました。行ってみてわかったことは空き店舗を有効に利用しようとするが、できない理由として、土地を保有する企業があって、その企業がその気になってもらえない、ということでした。これについては行政が関与していかないと、僕たちが入っていける問題ではないと思いました。方向性は変わるかもしれませんが、そういうことから進めていただけたらと思います。
○鈴木好美委員
　僕も同じように現場で初めて意見交換をして、地元の方たちは勉強会をやってきてが、あまり進展していなかったのではと感じました。あれから、半田信用金庫の常務さんと話をする機会がありました。長年かけてあのシャッター街ができてしまった。あれを新たにするには、名鉄と同じようになってはいけないだろうし、だから余計に手つかずの部分もあると思います。もう１つは、空家が知らぬ間に駐車場になってしまった、などは地元の方たちの認識もなく進めてしまったこともあると思います。結局は勉強会を進めていても進展はなかったことが現状だと思います。
○小出義一委員長
　まちづくり勉強会のことですか。ハードが中心という意味ですか。
○鈴木好美委員
　そうですね。そういう意味で言えば今後こういう形で当局も入ってコツコツとやっていかなければならない点だと思います。後はまとめていただいたことは、みんな同じようなことを思ったんだなと感じました。
○中川健一委員
　まとめを見まして、印象に残った点で追加をしていただきたいと思ったところは、内田元会頭がおっしゃっていたことですが、知多半田駅前の街づくりをやった時に、自分たちがもっと意見を言って実行すべきだった。そこが弱かった。という反省のご意見が僕は印象的でした。結局知多半田駅前の土地区画整理事業に失敗した一番大きな原因ではないかと思いましたのでそこを印象に追加していただきたいです。もう一つ意外だったのは今でもＪＲ半田駅前で商売をやりたいという人がいる、だけと実際やる場所がないというミスマッチが大きいということです。これは空き店舗対策につながるのでしょうけど、やりたいという人がいるということについて意外でしたので、追記をお願いします。また、会長の竹内さんが、区画整理のように道路をきれいにするのではなくて、今あるものを活かした街づくりができないだろうか。道は細い道のままでいいので、少し手を加えて若い人が住めるような街にしたい。というようなことをおっしゃっていました。これも印象的でしたので加えていただきたい。後、委員会に活かすべき意見のところで、空き店舗対策で商店の誘致もあげていただきたい。
○榊原伸行委員
　例えば次回をこの形式で開くのかどうか。我々が積極的にやればついてきてくれるのかもしれませんが、やはり商店街と住民の人がまちづくりの基本ですから、向こうが必要として

いるのかがわからないことと、今言っても遅いかもしれませんが、この前の懇談会の反省会、というか報告書のようなものを商店街の方や区長さんたちにも提出を求めるべきだと思います。今からでも間に合うと思います。どういう感想を持っているのか、というのと照らし合わせて次回の委員会につなげていけばいいのかなと思います。以上です。

〇新美保博委員

おそらく現状の認識は同じだと思います。例えば空家だとかはもう少し先の細かい部分であって、対策というのは手段です。手段のことは後でもいいと思います。何を考えなければいけないかというとなぜそんな街になったのかというのを考えないと、対策のしようがありません。なぜこんな街になってしまったのか。こんな街でいいのか悪いのか。いいと思っている人は誰もいないのだから、にぎやかな活気のある街にしたいというのは地元の人の意見としてはあるのだから、何をやっていけばいいのかということになる。その手段はいろんな手があるだろう。そこの、何かやらなければならないという思いと、なぜこういうことになったんだろうという解明はしてスタートすべきだと思った。この間終わった時に、あの人達の話と自分たちが考えていたことは、それまでに勉強会などをやってきていてＪＲ高架や区画整理のこと、ハード面の勉強はずいぶんされてきていると感じた。ただ、それだけで済むのか、と言えばそんな話ではなくて、建物が古くても人が集まる法則というのはソフト面の方策になると思う。ソフト面のことは誰も考えていなかったし、あの人たちはハードは超えてソフトをどうするのか、という話をしていたので、ずれが生じていたと思う。帰ってきたときに今までこの委員会がやってきたことと、懇談会がやってきたことを時系列で整理をすると随分違うところが見えてきました。資料を作ってもらいましたので、配ってもらいます。

〇小出義一委員長

それでは当局お願いします。

〇新美保博委員

読んでいると大変ですので、また目を通りしていただければいいですが、先ほど言ったようにインフラ整備のことについてはかなり検討されている。ただ、悲しいかな誰がやるのか、どういう風にやるのかという壁にぶちあたっている。結局地元の人たちと行政サイドの職員も勉強会に入ってやっていたと思いますが、やれない理由を並べ連ねられれば地元の人たちも何もできない、となってしまう。ただせっかく今まで懇談会や勉強会をやってきたのだからこれを活かさない手はないし、今回建設産業委員会でこの問題を取り上げたのだから、それなりのものを作らなければならないのかなと感じています。後はいろんな意見はあってほしいし、いろんな見方はあると思うが、あれがいい、これがいいではきりがありません。地元の人がいろんな意見を言われると思うがそれが全てとするわけでもないので、建設産業委員会としては参考意見として取り上げていけばいいと思います。これは建設産業委員会の問題ではないということに気付かざるを得ないと思います。行政と議会と地元が一体となって作り上げなければいかないなと思います。今後建設産業委員会でこれをたたき台に何を作り上げていくのか考えていかなければならないと思います。

〇小出義一委員長

せっかく用意していただきましたので、流れを説明していただきたいと思います。

○大松市街地整備課長
【資料に基づき説明】
○中川健一委員
　今の説明は過去の経緯を説明したということですか。
○小出義一委員長
　流れです。
○中川健一委員
　この前の新美委員の一体何がだめだったのかという分析をきちんとしなければならない、という意見があったと思いますが、大松課長に聞くのもなんですが、自分たちのやってきたことの何がいけなかったのかと理解しているのでしょう。
○新美保博委員
　ここに含めてはいけない。まだ個人的な意見であって、委員長も副委員長も意見を言っていないし、当局も言っていないのだからそれを聞かなきゃ。
○小出義一委員長
　あらためて、というのは意図して書いてあるのですか。
○大松市街地整備課長
　平成 20 年度までは具体的に街づくり、ハード整備を進めていくという前提で検討してきましたが、平成 21 年度の第 20 回、第 21 回のところを見ていただくとお分かりになるかと思いますが、ここで市長の見直し方針に基づいて、みなさんのご意見をいただき、あらためて街づくりを考えることになりましたので、年間まとめとしてこのように書かさせていただきました。
○小出義一委員長
　印象深かったのが、区長さんたちが懇談会では比較的ネガティブな言い方をしてみえた。賑わいをどうつくるかという方策まではあまり考えていないように感じました。商店街の方は日常そういう場で生活しているので温度差はあると思います。そういうこともあって、街づくりについてのソフトの部分を共有していかないといけないと言ってみえたのだと思います。今まで地元の方と商店街の方が共有してきた場が街づくり協議会だったのかなと思います。メンバーでも変わってくると思いますし、ソフトの部分、どういうコンセプトで作っていくかということを勉強する場であったのかなかったのか、そこだけ確認させてください。
○大松市街地整備課長
　街づくりを進めるうえで、商業、住民の方の何らかのルールは必要だと、そういうものが無くて道路を整備しただけではおそらく街づくりにはつながらないだろう。ということで何らかのルールは必要だという所までの認識は参加している皆さんの中にありました。具体的にどういったルールが必要なのか、というところまでには至っていません。
○小出義一委員長
　他にいかがですか。
【発言するものなし】
○小出義一委員長

では先ほどの感想の続きに行きます。
〇岩田玲子副委員長
随分温度差があることは感じましたので、地元の人たちがどういう風に思い描いているのか、問題があるのか、いろいろ知って、それからどうしていくかを考えないと進まないのかなと思っています。でも住民の方だけでは進まない部分もありますので、住民、行政、議会みんなで街づくりをしていくモデル地区にするにはどうやっていくのか、目的をはっきりさせた組織をつくることが大事ではないかと思いました。どういう組織を作っていけばいいのか、と思います。
〇小出義一委員長
当局からも伺いたいと思います。
〇榊原市民経済部長
私が目から鱗と感じたことは今まで商店街をやる人の為のサポートをしてきましたが、現実は貸す人、地主に対する何らかの支援が必要ということです。あとは、住民のみなさんは自分たちのできることはソフト面だと考えていて、行政の立場からすると、住民の方の考えていることにもできる限り反応していかなければならないが、市としての施策、市民全体への利益を考えてどうしていくかという視点は忘れてはならないと感じました。
〇笠原建設部長
現状認識としては以前アンケートを実施しておりますけれども、その中ででていた意見、街に活気が無い、商店が少ないといった回答とよく似た意識を持っておられると感じました。その中で特に地元の人が強い意志をもって街づくりに対していることを感じ、先ほど私どもが出しました資料にもありますが、協議会、発展して勉強会ということで、ハードの協議をしてきた団体ですので、今回みなさんの意見を聞く限りではソフト面の施策をかなり望んでおられる。また、強い地元の方の意識を反映できる場を今後考えていかなければならないと感じました。
〇小野田商工観光課長
特に印象に残ったのはあの地域に限らず流通形態に限らず、商店街に対する生活の中の位置づけが違ってきている。その中で今までと同じように復活することでなく、特徴あるものでなければ生き残れないという考え方、単純に空き地空き店舗に商店を誘致する際に、重要な視点だと思います。特に飲食店がよく入っていますが、昔と違ったニーズによって、飲食店が流行っているというニーズがあると思いますので私どもとしては重要な視点です。それと以前から感じていましたが、あの地域は住人のコミュニティ、商店街同士のコミュニティがしっかりしていますので、それを残した形での街づくりを望んでいるということを再認識できました。それらを踏まえた施策を私たちもしていかねばならないと感じました。
〇小出義一委員長
ありがとうございました。これからどうしていくかですけれども、先ほど街づくり協議会、今までの流れについても説明をいただきましたが、この点、今後どのように進めていくのかというのも一つかと思います。行政が何ができるか、見直しの部分もあると思います。一つずつ進めていきたいと思います。

○新美保博委員
　その前に委員長の感じたことを聞きたい。
○小出義一委員長
　一番印象深かったのは寂れていると言いながらも、非常に可能性がある場所なのだと商店街の方が強く言っていたことです。ただし、寂れてきたにはその理由があって、流通であったり、消費構造であったりして、そういったものが大きく変化していることを受け止めながら対応していかないといけない。特色のある物販であったり、飲食であったり、ニーズに合っているものについてはそれは大だということを改めて認識しました。ただ、地権者との関りの中で、思ったところに店を出せるかということがありましたが、住民と商店の方の中にギャップがあるのかな、という気がしました。商店の考えを住民の方がどれだけ理解をしていただいて、どういうことをしたら賑わいに繋がるかということを問題共有になっていないと感じ、先に進めていくにはそういった共通認識を作る場が必要だと思います。それは今までやってきた勉強会にプラスソフトでどんな街を作っていくかを問題共有するような場で、それなしに、ハードの部分だけをコンセプトなしに作っていってもなかなか進まないだろうという印象です。
　では、一通り意見を聞いていきましたが、今後の進め方で考え方があればお聞きしたいと思います。
【発言するものなし】
○小出義一委員長
　では、私の意見ですが、一つは話し合う場を作っていかないと、商店街だけが動いていても新たな店舗誘致などは難しいと思います。そういった意味では地元と一緒になって商店づくりに限らず街づくりというものをソフト面でもどうやって作っていくのか話し合う場が必要かなと思います。そこを起点として店舗誘致、相談窓口などいろんな機能をつくっていかなければならないと感じています。そういう点について委員のみなさんにもご協議いただきたいと思います。いかがですか。
○新美保博委員
　その答えをだすのは簡単で、話し合う場は必要だ。１回ではなく２回３回とやろうということで終わりだと。これでこの間の話し合いが終わりだとは誰も思っていないと思います。今後もなんらかの形で続けていかなければならないとみんなが思っていると思います。ただ、このまま第２回で話し合いましょうとなっても子どもの集まりではないので、もう少し詰めていかなければいけないと思いますが。
○小出義一委員長
　暫く休憩します。

休憩　午後２時 11 分
再開　午後２時 55 分

○小出義一委員長
　休憩前に先方に対して回答をもらえたらという話がありました。少し時間はたっていますが、これについても一度お願いして補足として取り扱えればと思いますが。

○新美保博委員
　それはやらなくていいのでは。やらずに今の問題に対して、委員会でどういうことができるか考えて、それに対して回答をもらえばいいのではないか。そう思いませんか。この会議を進めていくのに回答を待っていたら今日は何も話ができない。
【発言するものあり】
○小出義一委員長
　暫く休憩します。

休憩　午後２時 58 分
再開　午後３時 00 分

○小出義一委員長
　先ほど一定の問題に対して委員会としての見解を出し、それを先方に提示し、意見をいただくという案が出ていますが、それでよろしいでしょうか。
【発言するものなし】
○小出義一委員長
　委員会でまとめるというテーマ、内容については先ほど中川委員がいくつか挙げていただいていますが、それを中心にしていいですか。
○新美保博委員
　この６つの項目についての考えは手段だと思います。それをどういう風に対応していくんだ、対応できるんだという意見は別でまとめればいいし、相手についてもこういう風だったらどうか、こういう風だったらどうかと聞くことは必要だと思う。その前段にあなたたちが主体となってやることですよ、ということの認識をどこかで持ってもらわないと、いくらこっちが活気のある街だ、賑わいづくりだとぎゃあぎゃあ言っても結局上から目線で言われた、と言われて、上は何をやってくれるのか、と話がなれば元に戻ってしまう。日にちだけがたって、数回しか話し合いはしていないということは今まで何をやってきたのということになってしまう。そこも自分たちの街づくり、今住んでいる街をこういう風にしたいんだというもののことをしっかり言ってもらわなければならないし、どこでもそうだけれども住む人がいて、観光客がいる、住んでいながら商売をやっている人がいる。住人にはぜひこの地元で買い物をしてください。観光客にはここで買い物をしてください。ということが意識づけされなければ賑わいは出てこないし、商売人もやらないでしょう。そういう認識を特に地元の人には持っていただいて、その後に、だったらこういうことはできないだろうか。例えば空き地空き店舗をこういう風にしてほしい、という話になると思うので、そこを第一に確認しておきたい。そうでないと議会が言っているだけ、行政が言っているだけとなってしまう。それではいけないから、まずは半田から賑わいの取り戻せる仕組みがつくれないかと考えている、だったら地元の人たちも何とかしなきゃという思いになってくれないとそれはできない。ただその思いはあるだろうし、できると思う。だとすると今度は実際に食べられる餅を作らないといけない。実際にできる牡丹餅を提案しなければならないという時に、あんこが先か餅が先かと言っていても始まらない。お互いが餅を作り出せばいいと思う。３者が一緒になって誰が食べてもおいしい餅を作らなければならない。その為にどういう風にしていく

か。
○中川健一委員
　その意識づけ、動機づけは次の本音トークの時にちゃんと問いかける。
○新美保博委員
　一杯飲まないと話せないことは本物ではない。酔った勢いというのは僕は大嫌いだし、委員会ではしゃべらずに廊下で話すのは本当の意見ではない。そういう意見は取り上げなくてもいいと思います。
○中川健一委員
　飲み屋は別にしても一度突きつける場は必要かと思います。
○新美保博委員
　本音が聞ける場は必要だと思います。こちらも本音で言わなければ向こうも本音では話してくれないと思います。こちらも今できることとできないことを話せなければならないと思います。今できることと、もう少し時間がたった後にできることはまた変わってくると思います。
○中川健一委員
　次回まず相手が街づくりを本気でやる気があるかをきちっと問う、確認する場は設けて、それと同時にこの前の話し合いで向こうからでた意見、先ほど言った５、６点については要望もありましたので、それができるかどうかは具体的にここで聞いて、制度設計を揉んで、次の場に挑むということにすれば。
○沢田清委員
　両方から固まって来れば、片方は動かざるを得ないですよね。
○小出義一委員長
　主体的にやる気があるかどうかを確認するということでしたが、それは前提ということで進めていったほうがいいかなと思います。条件とするのではなく、期待して進めるとい風でいいですか。
○中川健一委員
　確認するまでは前提で動くということですか。
○新美保博委員
　確認するまで、今は前提で進めればいいです。ただ確認してそんなつもりはない、役所がやることだと言われたら前提が崩れてしまう。前提で手段について話すのは、それでいい。次回に臨むのは案内を出すにしても街を作るのはあなたたちが主体ですよね、と言われればそうです、と言ってくれればそれでいい。そうではない、という話になれば、主体は違うという話になるので確認をとならなければ、確認をとって進めないと余計なお世話になってしまう。うまくいけばいいですが、悪いと余計なお世話になってしまう。
○小出義一委員長
　私は地元の方たちが主体的にやっていただけると受け止めていましたので、あえてそれを前提としてということで、確認することまで考えていませんでしたけれども、確認する必要があるということでしたらそれを踏まえていきたいと思います。確認していきたいと思いま

す。個々にという訳にはいかないですが、代表に確認をとるという形になると思いますがそれでよろしいでしょうか。
○沢田清委員
　委員長が確認をしておいていただければいいのではないですか。その確認がとれてなかったもので、私たちだけで進んでもいいのかというのが先ほどの話だったと思いますが。
○小出義一委員長
　前回のお出かけの中でもいろいろ声がありましたけれども主体的には自分たちがやることで、行政はその手伝いをしてほしいという意見が多かったように思います。ただ、そうでない人中にはあったと思います。
○沢田清委員
　僕も、そう思います。あなたたちがやってくれるならやるけど、という人もいたと思います。
○新美保博委員
　そっちだと思います。主体性を持って自分たちでやるという声は一言も捉えていない。
○沢田清委員
　そこらへんで本気が聞けなかったという意見ではなかったのか。
○岩田玲子副委員長
　本音を聞いてどうしたいのかがあるのか、という所ですよね。
○新美保博委員
　委員長に確認をとってもらえればいいことですが、本気でやっていきたいと考えていることを外に言うのは決して恥ずかしいことではないし、悪いことではない。第２回目でみんなが集まった時に、本気でやりますと言ってくれればそれで俺たちは済む話だと思います。それをあえて聞かずにわかっていることです、としてしまうことではない。
○中川健一委員
　会議体で代表の人たちに認識してもらうことは向こう側の意見も統一されますので、いいと思います。そこで違えば論争して、穴が埋まらなければ考え方が違うということですが、しょうがないことです。
○小出義一委員長
　前回区長さんたちが話し始めたときに、随分空気が違うなと感じました。自分たちの主体でやるんだぞという意識はあまり感じませんが、商店街の中にはそう思っている方たちもいると思いますが。だから前提に何がいけなくてこういう状態になっているかを分析して一つ一つ手を打っていかないと好転はしないよと、少しネガティブな言い方に聞こえるかもしれないが、原因分析がしっかりしないと言い手は打てないと前向きに私は受け止めました。そういうことを主体的に自分たちは常に考えているのでそれを後押ししてくれと、私は受け止めていました。
○岩田玲子副委員長
　もし住民の方たちがどうしたいのかというのがあるんだったら、それをバックアップしたり、みんなで支えてやっていく気があるというこちらの意思も伝えないと、それが住民につ

たわらないと、やるかやらないかわからない人に本音を話しても、という気持ちもあるでしょうし、長い目で連携して取り組んでいく気がありますというこちらの覚悟も伝えないと、本音で話せるものも話せなくなるし、信頼関係もあると思いますので、そういうことも伝えたほうがいいと思います。そのうえで話し合いができたらと思います。

〇沢田清委員

今から進めるのに商売をやってみえる人とそうではない区長さんたちは全然違うと思います。あそこにいて一言も意見をいわなかった人は２つに１つです。賛成か反対か、と思います。

〇新美保博委員

答えが出せない人の立場だと思います。

〇沢田清委員

出せないで言わないのか、出そうと思っているけれども、それは行政がやってくれなければいけないことと思っているのかわからない。それを聞いてきてねという意味もあるし、こちらばかりが勝手に想像して進めるのは問題があるのではということです。そこを聞いてきてほしい。会議形式で聞ければいいですが。そういう意味で感想を聞きたいという話ではなかったですか。

〇小出義一委員長

前提条件としての確認はしておかないとあてが外れてしまっては困りますので、コンセンサスが得られればと思いますので。

〇沢田清委員

住んでる人全員と話ができればいいけれども、それができないから代表として出てきてほしいということはしっかり言ってでてきてもらっているのだから、その代表者が一言もしゃべらないのはちょっと気になると思います。

〇中川健一委員

現実問題として商店街の人は知多半田駅前の区画整理からやってきているから、街づくりがどうあるべきかはわかってきていると思いますが、会社員の方で順番で区長の当番が来たという人はわからないというのは本音だと思います。自治区は街づくりはやっていないわけです。運動会とかコミュニティはやっていても、街をみんなで作っていこうということは自治区でもやっていないことで、本当は分かっていない人多いというのが実態ではないでしょうか。

〇沢田清委員

わかっていないから、よくなることは賛成だけれども、という意見ならそれでいいが、その確認がとれていない。そこが気になります。

〇小出義一委員長

そこは確認していきたいと思います。こちらから提示しなければいけない部分について、まとめの報告書に欠かさせていただきましたが、地域住民が意見を出し合えるよう、住民・商店街が中心となる街づくり体制への後押しというようなことで具体的にはどういうことが描けるようになるのかということ、ここのところに書いていたとことが今後検討していか

なければならないことですけれども。また、行政がやるべきこともまとめたいと思います。
〇中川健一委員
　この場に部長も課長もいますので、聞いていけばいいのではないですか。
【発言するものあり】
〇笠原建設部長
　そういった内容についても地元のやる気がどれだけあるのか、地元としてやっていきたいことなのか。やらないでいいのか。そういったことも含めて、今手法の話をしていますけれども地元を入れて揉んでいかないとこちらでまた考えているだけだと、それがあるからやりましょうかと地元が動くのはうまくいかないのではという気がします。
〇中川健一委員
　そういうことを聞いているのではなく、景観補助金で 500 万円を出すという制度設計が可能かどうかを聞いている訳です。
〇笠原建設部長
　市の施策は私どもだけで決められるものではありませんので、補助金判定会議に基づいて３か年計画に挙げて、それから予算の話になりますので、今この場で私ができるとは言えません。ただ、先ほど課長が言いましたけれども、制度自体はあり、その額の話ですのでできないことはないと思います。
〇小出義一委員長
　景観形成のことは住民の方があまり触れていなかった、むしろ空き地空き店舗対策をどうするかということでしたが、そういうことで行政がどういう風にやれるのか。議会としてもっとそれをどうするべきかということをつけてお応えしていくということかなと私は思っていましたが。
〇中川健一委員
　最後内田さんが、景観に配慮したカラーイメージの申し合わせを作りたいと言っていた。
〇新美保博委員
　そういって身も蓋もない話、何をやるにしても金がかかります。ただでできることは一つもありません。例えばこういう目的の為に予算を組みますと言えるかどうかです。もう一つは法的壁です。法的壁を行政サイドでとります。と言えるかどうかです。それが今の 100 万が 1000 万円になるかどうかは分からないけど、その時の掛け合いになると思います。要は予算を付けてでも街づくりをするんだということを行政サイドが言えるかどうかです。議会サイドはやれと言っている訳です。金が無いからできませんというのが行政サイド。このキャッチボールを第３者が聞いていたらいつになるかわからないからこんな話をしていてもしょうがない、ということになります。予算をつけてくれるのか、つけてくれないのか、その腹がくくれるかどうかです。今決められないということであれば次の会合までに上とちゃんと話をしたほうがいい。
〇榊原市民経済部長
　私が提出しました今後の展望・課題の部分で今まで店舗をやる人に対して補助をするという考えでしたが、貸す人、そこに住んでいる人が貸したり売ったりしなければいけ無い訳で

す。その人たちが貸したくなる、売りたくなるような施策が必要だと思いました。例えば市民経済部からすると市長に観光振興を重要な施策としている中で、ＪＲ半田駅前は重要な地区であってＪＲの駅前からみゆき通り、ミツカンを観光ルートとして商店街は集積すべき、と私は思っていますので、あらたな補助制度も作っていく必要があるという認識は持っています。

○中川健一委員

僕は最後には補助金がでてくるものだと思います。今までの空き店舗対策ブラスもう少し加算してでもやる恰好がないとできないのではないかなと思います。

○榊原市民経済部長

私は行政でできる部分と民間の力を借りなければならない部分とあると思います。行政はここへ来るとこういう補助がありますよと、誘導していく制度を作ることが役目だと思います。地元にも相談窓口となるような組織を作ってもらって、そこに行政にはこういう制度があるよと、来た人、いる人に対して案内していただく。行政はそこから要望を受けて制度設計をしていく、そういうことではないかなと思います。

○小出義一委員長

間接的にということですか。

○榊原市民経済部長

間接的にというか、そういう方向へ持っていけるような制度を作っていくということです。そこが行政の役目だと思います。カクサンさんの話にもありましたが、まず希望者の受け皿となる組織がありませんので、そういう組織は地元で受けていただきたい。その中で行政と一緒に動いていけるような形をとれればと思います。

○中川健一委員

やっているかどうかはわかりませんが、東広島や佐世保に視察に行ったときに、1店舗あたり月 100 万円の空き店舗補助金を出すという自治体もある訳です。それは今までよりも空き店舗対策をがんばってやっているというアピール効果などいろんな意味もあるらしいです。

○新美保博委員

今の部長の話はまるっきり無責任な話で、困ったら言ってこい。相談にはのってやるぞというもので、実際に 100 万円必要で困ります、と相談に行ったら、うちは 10 万円しかださないから、あとは自分たちでやれよという話と一緒ではないか。どんな制度をつくるかは知らないけれど、画期的な制度を作るといっても、やるのはお前たちだということなら、行政はまちづくりに対してものを言ってはいけない。言う資格もない。あなたたちはどういう街にしたいのか。半田市の職員としてどういう街にしたいのか。裏を返せば、あの人たちがなぜ困っているのかわからないということだ。普通なら１から１０までわかっていて、これくらいのことが必要だということがわかっていなければならない。ここが痛いからと言われて薬を塗ろうかということと一緒のことを言っている。そんな制度はいらない。金がもらえれば家なんかいくらでも直す。あの地区の居酒屋でお客がこないと嘆いていても、宣伝もしないし、努力もしない。それで人が来ない。人が来たら食べさせる、飲ませる、という時代で

はないことを認識しなければならない。住人が買い物をするのに外へ行ってしまうということも、誰のせいかと言えばあなたたちのせいでもあるということです。それと一緒のことです。努力も金もださないからです。お客ここへ来てくれる、気安くなる制度を作らなければならない。お客が遠くから来ました。駐車場はすぐそこにあります。ここにいたら一日無料ですのでゆっくり歩いて食事してください。食事をしてくれたら隣の店が10パーセント安なりますよ。そういう制度にしなければならない。そもそもいい加減にしてほしいのは街づくりのインフラ整備やって、人が集まるソフト事業をするのはそれでいいけれどもそれを商工観光でやるのか、建設でやるのかはっきりしないと、あっちもこっちもでは半田市全体を賑やかで活力のある街にしたい。だからＪＲ半田駅前地区を選んだ。ここへポイントを作ったとするのならば、次は何をやるのかというポイントもそろそろ絞り込んでいかないと、商売人が成り立つような街にするのか、住民が住んで暮らしやすい街にするのかは相反するものがあると思う。住人は静かで、近場で安く物が買いたい。そういう街にあそこをしたいかと言えばそうではないんだと、商売人や飲み屋がでて、いろんな人が行き交うざわざわした街がいいのか。というところもエリアで絞り込んでいかないと、八方美人でやっているといき目的地に行こうとしているのにあちこちいかなければならなくなる。

〇中川健一委員

もう少し具体的な空き店舗対策はないですか。

〇榊原市民経済部長

私がイメージしているのは知多半田駅前とは違った街で、鉄道高架がされたＪＲ半田駅からみゆき通りにかけては景観が統一され、そこには商店が立ち並び、そこを観光ルートとして、歩いてミツカンなどにいってもらう。ルートを決めて商店を集積し、後は住民の人たちがゆっくり暮らせる場所にする、そんな街づくりをイメージしています。

〇新美保博委員

そこには制度設計はいらないよね。制度設計はたとえ話かもしれないけれど。

〇榊原市民経済部長

制度設計をし、例えば店舗をやる人に対し貸してくれた税金分、消費税分を補助するだとか企業誘致と同じような考えです。例えば投資した株の10パーセントを補助する。といっ

〇新美保博委員

究極はお金だよね。それは税金なのだから。そこに税金をかけられるかどうかということになる。あの地区は大事なところだからそういうことはやっていかなければならない、予算を付けますというトップが言ってくれればこんな問題はクリアできる。後は中身のやりくりだから。枠の中でやればそれで済む話です。それを行政だけでなく、私たちも、もちろん当事者となる地元の方も一緒になってものが言えるかどうかです。地元の人が請願をだしても、何もならない、議会がぎゃあぎゃあ言ってもどうにもならない。

〇榊原市民経済部長

ただ、私が一人でやらなければならない、と言っているよりも市議会から提言があった。地元からはそういう請願があった。となれば市長の考え方は変わると思う。

〇中川健一委員

結論はそういうことだと思います。後は空き店舗の為にどれくらい予算をかけてやるんだということです。今の予算では店舗改装費に100万円、毎月２分の１の５万か６万ですよね。それと同じではいけないし、僕ら議会としてはどこまで求めていくのか。僕は最低倍として考えていますが、それくらいのつもりでやっていかないといけないのではと思います。後は、高齢者の所有者というのもなかなか難しい問題だとは思います。これはもう少し事例を研究しないといけないと思いますが、他に大手企業が持っている空き地の件はどうですか。

〇新美保博委員

例えばミツカンに行って、ここの土地を街づくりのために貸してくれと、交渉するのは市がやらなければならないことだ。では、空いた土地をどうするのかということです。それは地元の人がこの土地でこういうことをしたいということを見つけていかなければならない。

【発言するものなし】

ないようですので本日の委員会はこれにて閉会します。ありがとうございました。

閉会　午後４時25分